

諏訪地区商店街(豊川市)

【豊川市諏訪商店街振興組合、豊川市中央商店街振興組合】

キャッチフレーズ

人にやさしい諏訪づくり

～都市機能の集約とコンパクトシティを推進し、中心市街地「諏訪地区」の活性化を図る～

活性化モデル商店街としてのモデル性

都市機能の集約とコンパクトなまちづくりで来街者の増加を目指す交流型商店街

商店街の将来ビジョン

諏訪地区は、市役所を始め、警察署、郵便局など、多くの公共公益施設が集約し、行政機能の中心となる地区である。

諏訪商店街は、商店街が共同で経営するショッピングセンター「プラザすわ」から始まり、その老朽化から、新たなショッピングセンターの建設が求められるようになり、市街地再開発組合を組織し、平成元年に商店街の核となる商業ビル「プリオ」を完成させた。この「プリオ」の管理会社である豊川市開発ビル(株)(第三セクター)にも出資を行い、諏訪地区全体の商業経営にも積極的に参加している。

このように、多くの公共公益施設が立地し、商環境も整った地区の特性を活かし、人にやさしい、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを官(市)民(商店街、地元)が協力し、共同で推進し、来街者の増加、居住人口の増加(街なか居住)へつなげ、諏訪地区の活性化を目指す。

具体的に取組む事業内容

地域経済活性化事業(定期イベント)の充実(19年度～22年度)

「すわに食べにおいでん祭」、「まちなか星空観望会」といった商店街主催のイベントを拡大実施するとともに、高齢者向けイベントなどを新たに実施する。

人にやさしい街づくり整備事業(20年度～22年度)

人にやさしく、歩いて楽しいまちづくりを目指すために、歩道を中心に整備する。

公共公益施設の集約(19年度～21年度)

プリオ5階へ、子育て支援対策として「子育て支援センター」を設置し、子育て環境の充実及び利便性の向上を図る。また、更なる利便性向上のため、土日祝日対応の住民サービス機能の配置などを推進し、コンパクトシティの実現を目指す。